

氏名	本 城 巖
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 3 4 号
学位授与の日付	昭和43年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	左心バイパス法による胸部下行大動脈遮断に関する実験的ならびに臨床的研究
論文審査委員	教授 砂田輝武 教授 田中早苗 教授 西本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

要旨：胸部大動脈手術の補助的手段として左心バイパス法の有用性を認め、種々の点より検討し次の結果を得た。

- 1) 灌流中は圧受容体反射の影響が強く、遮断中枢側血圧より末梢側血圧の方が著明に動揺し、かつ両者の間には逆比例的関係はない。
- 2) 左房脱血法、左室脱血法、経左房左室脱血法のうちでは、経左房左室脱血法が最も優秀である。
- 3) 左心バイパスと低体温の併用は心室細動を起こし易く、脱血管挿入中では除細動しがたい。
- 4) L.M.O. 10%、3%アミノ酸加アルギン酸10%、計20%稀釈による灌流法は出血量とブリーング量とともに減少させる。
- 5) hypovolemic 灌流法を使用すれば脱血量を減少させることが出来る。
- 6) hypovolemic 灌流法でも、軽度の代謝性のアシドーシスを示したのみである。
- 7) 脱血用カニューレのサイズと脱血量との関係のグラフを作製し臨床に利用した。
- 8) 臨床例2例に本法を利用し手術に成功した。

論文審査の結果の要旨

本研究は胸部下行大動脈遮断に関して実験的ならびに臨床的に研究したものであるが、その対策として、従来とくに本邦において顧られなかった左心バイパス法の確立について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。